



キリスト教科学が私の人生を変えた

Christian Science changed my life

Christian Science Sentinel, vol 110 number 45

クリスチャン・サイエンス・センチネル より転載 第110巻 第45号

1999年に、私は、腰に激しい痛みを覚えるようになり、専門医を訪れました。医師は腰の骨を人工のものに入れ替える必要があるが、その手術を望むかと尋ねました。私は断りましたが、3ヶ月後にまた診察に来るようにと言われました。これは、60年つれ添った夫が亡くなったばかりのときで、娘の住む近くに引っ越してきた直後のことでした。

当時、私はキリスト教科学者ではありませんでしたが、いつも教会が好きで、自分は霊的であると感じていました。そして、新しい隣人の一人の人が、**キリスト教科学**の教会の礼拝にいっしょに行きませんか、あとでクリスマス・パーティもあるのですが、と誘ってくれました。行ってみると、とても楽しい会合で、教会員たちはとても親切でした。私は気持ちが高められ、すぐにその教会の会員になりたいと思いました。

やがて、私はその支教会の会員となり、またボストンの母教会の会員にもなりました。

その隣人は、私が腰の問題を抱え、時には倒れそうになるほどの激痛を覚えていることを知ると、すぐに、キリスト教科学実践士に電話をしてみても、と伝えてくれました。そして電話をすると、実践士は非常に心静かで、愛に満ちていて、私をすっかり安心させてくれました。彼女は

他の日本語記事については、次をご覧ください: <http://www.spirituality.com/christiansciencesakigake/index.jhtml>

© 2009 The Christian Science Publishing Society (CSPS). この記事は、50部までプリントアウトして、非営利として実費で提供することができます。この記事メール (email) で送ったり、ウェブサイトに載せたりすることはできません。代わりに、CSPSのウェブサイトに掲載されているこの記事へのリンクを、メールしたり、ウェブサイトに載せたりしてください。この記事の他の出版物に転載する許可を得るには、copyright@cspcs.com 宛に、メールをお送りください。件名は、英語で "Copyright Request" としてください。

神について、また、神が私を守っていることについて語り、祈ることを約束してくれました。彼女はまた、聖書と、メリー・ベーカー・エディ著の『科学と健康-付聖書の鍵』のなかの言葉を示して、これを勉強し、これを使って祈るようと言いました。

これらキリスト教科学の考え方は、私には全く初めてのものだったので、特定の文章を使って考える必要がありました。私はメリー・ベーカー・エディによる「日々の祈り」から始めました：「『あなたの国が来ますように』；神性の真理・生命・愛の統治が、わたしの中に確立され、わたしからすべての罪を除き去るように；そしてあなたの言葉が全人類の愛情を豊かにし、全人類を支配するように！」（メリー・ベーカー・エディ著『母教会の規範』、p.41）。私は、神に、すべてのことについて導いてくださいと願いました。

神の子であるということ、完全に霊的であるということは、何を意味するのか、理解することが重要であることが分かりました。私はまた『科学と健康』の次の力強い考えを使って祈りました：「心 [神]こそ、肉体感覚の主人であって、病気・罪・死を征服することができる。神から与えられたこの権威を行使しなさい。あなたの体の所有権をしっかりと握って、その感情と行動を支配しなさい。霊の力に立ち上がり、善に似ないものすべてに抵抗しなさい。神は、人にこの能力を与えている、そして何ものも、神が人に授けたこの能力と力を、害することはできない」（p.393）。『科学と健康』に示されている「存在についての科学的声明」もまた、私が物質的ではなく霊的であることを約束してくれました（p.468）。この声明は、私が、喜びや愛など、善であり、霊的である考えのみを取り入れることの大切さを、教えてくれました。私は、「考えの戸口に門番として立つ」（p.392）ことが、必要でした。

それでも、実践士に初めて電話をしてから1週間して、症状が悪化しているように感じて、再

び電話をしました。実践士は、私が、確実に神の加護の下にあること、彼女が私のために祈り続けていることを告げ、そして、私自身も祈り続けるようにと言いました。これが転換点となりました。私は自分が実践士に合意していること、そして、神と私たちの祈りを、信頼していることに気づきました。次第に、そして数週間後には、気分が爽快になり、再び歩いたり、泳いだり、庭仕事ができるようになっていました。私は癒されたのです。

これは数年前に経験したことですが、恒久的な癒しとなっています。今も、私は庭の手入れを続けていますが、何の痛みもありません。

ところで昨年、15年位前から私の体にあったほくろが大きくなり始めたため、自分のために祈りました。痛みはなかったのですが、怖かったのです。しかし、私は、神が助けてくださることを信頼していました、自分が神の完全で霊的な子であり、神の愛が唯一の力であり、現存であり、神がすべてであることを知っていたからです。数週間ののち、ほくろは完全に消えていました；実は、ある日、無くなっていることに気づいたのです。

キリスト教科学について学び、地域のキリスト教科学の支教会に加わって、私の人生はすっかり変わりました。教会員となって、私は生きる喜びを知ったのです。夫が亡くなってから、私はとても独りぼっちで、どんなことにも参加する興味を失っていました。ところが、この自分について、また人生について抱くようになった新しい展望が、人生を、楽しい、希望にあふれるものにしてくれました。最近、スペイン旅行をしてきました。子供たちは、私がこのように変わったことを喜び、一人の娘は「お母さん、これはお母さんが、正しい考え方をしているからよ。お母さんの新しい宗教のお陰だと思うわ」、と言ってくれました。

メリー・ベーカー・エディが、『科学と健康』やその他の著作を私たちに与えてくださったこ

とに、深く感謝しています。

英国、ミドルセックス、アシュフォード・コモン

ジョイス・シモンズ

Joyce Simmonds